長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 小田 誠
購読料一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp

A 第87回定期大会討論の概要 組織拡大・強化、「3か年計画」

教育実習生に対策講座

井野口代議員（佐商）

本部が実施している採用試験対策講座、効果はあがっている。教育実習にきた卒業生に、高教組の採用試験対策講座の案内プリントをプレゼントし、電話番号やファクシミリ番号を確認して、相談するように伝えた。

長崎高教組のグッズとして、ポスターをプリントしたバッグを作ってはどうだろうか。

実教の加入の経緯

島津代議員（佐工定）

佐世保工業全日の実習教員の東川さんが、若い実習教員に対し、「困っていませんか」というチラシを配布し、高校入試の際に、実教の集まりを開いたところ20人中10人集まった。2級格付けの問題など単位修得の問題について体験を交えて話をした。正面切って加入を勧めたわけではないが、加入届が届いた。同じ実教として勇気をもらった。

車の中でじっくり話す

濱本代議員（佐中夜）

今年、事務の先生の加入があった。校納金や給食費などを滞納した生徒を、担任と事務で家庭訪問する機会が数回あり、車の中でじっくり話を交わし、組合の紹介をしたりした。すぐに加入につながったわけではないが、ジワジワと組合のことを考えてくれていたようで加入届が出た。本部からの資料を使い声かけをすると、多くの方が話を聞き反応してくれる。

夏は若者を誘い川棚へ

錦戸代議員（西陵）

民主教育推進委員会を中心に夏・秋・冬の教研をすすめていく。夏の教研は、小西祐馬准教授を迎えて、子どもの貧困問題について講演を予定している。領域別分科会で、平和学習や主権者教育、民主的職場つくり、生徒会活動など実践を持ち寄って、学習を深めよう。

「夏に川棚に行こう」を合い言葉に、若い先生、非正規の先生を誘って集まろう。

色々教えてもらった

砂田代議員（長工）

4月から新規に採用された。5年ほど前、豊玉で臨採をしていた時、分会長より採用試験学習会を紹介され参加し、組合を知った。島原工業や大崎などで組合の先生方にいろいろ教えてもらって、昨年採用が決まり、1月に組合に加入した。支えてもらったので、教員をめざす若い人たちにできることがあればやっていきたい。

自分にやれることをやる

平湯代議員（長西）

4月に異動してきた。分会での活動がほとんど無く、署名などもまわってこない。代議員も決まっていない。自分が行きますといって、本日参加した。自分ができることからやっていく。職場は自学会が多く、考査前の土曜・日曜や考査中の午後も、職員が監督につく。大変だなあとつくづく思っている。

支部歓迎会でまとまる

田中代議員（虹が原対馬分教室）

新しく2人を対馬支部に迎え、議案書検討会を兼ねた支部歓迎会を豊玉で実施した。12時を越えて、日を跨いで仕事をしている職場があるなど初めて知った。知らなかった状況を聞くことができてよかった。年末にも豊玉でやることを約束。少人数だけれど、やれることからコツコツやっていきたい。

組合に入ってよかった

中鋪代議員（壱岐商）

一年前に採用試験に合格して、教員となった。教員採用試験を受ける決心をした時、長崎高教組の対策学習会のことを知り、参加した。学習会で勉強したこと、特に模擬授業が、大いに役に立ち、合格した。感謝の気持ちと一般企業での組合の経験もあり、採用直後に加入した。組合に入ってよかったと思う。悩んでいる先生に声をかけていきたい。

B 生活向上、権利確立、民主的人事

部活動・正規教職員増を

井野口代議員（佐商）

再任用が増え、採用が減っていると考える人が増えている。一方で、フルタイム再任用の部活顧問や担任は当たり前。しかし、給料は半分。正規の減少は部活顧問の問題も。県教委や高体連と部活のあり方についての話し合いを早急に。臨採、時間講師、佐世保支部内で80人。問題は大きく、多い。

クールビズがない

平湯代議員（長西）

昨年10月の人事のヒヤリングの際、進学校は無理と伝えていたのに、希望は無視されて異動になった。希望と納得の原則はどうなった。

女性の活躍のため人員増

馬場特別代議員（女性部）

県策定の「特定事業主行動計画」について。共働き家庭では、男性の育児休業が必要と考える人が多いが、職場の意識改革が必要。ワークライフバランスでは、個人の生活、家庭生活を大切にする意識は強い。マタハラの本質は、産休育休で周囲に仕事が増えると感じること。人的保障を確実にすることが大切。女性管理職を増やすためには人を増やすことが先決。

5月初めに校長が「クールビズはしない。生徒に範を示すためネクタイ着用」と申し渡された。暑いし、具合が悪そうな先生もいる、クールビズをとお願いしたが、聞き入れられていない。

C 民主教育

「子どもの貧困」深刻に

中村代議員（大崎）

1年を担任して、母子家庭、生活保護世帯がふえたと感じている。造船の島、大島には女性の働く場所がない。体調不良が続く生徒を抱え、朝迎えに行ったり、部活指導後家庭訪問をおこなう担任が多い、福祉や行政と連絡を取っている担任もいる。SCやSSWの配置の拡大を切に願う。

分教室の施設の充実を

田中代議員（虹が原対馬）

今年から、養護の先生が配置された。昨年と比べて、子どもたちへの対応が上手くいっている。一方で、保健室と名がついているが、倉庫みたいな状態で、水道の工事も終わっておらず、保健室としての設備の充実が望まれる。来年度、重複のこどもが入学する予定であり、そのための整備の問題もある。

学校が期日前投票所に

末永代議員（北農）

平戸市選管の依頼で、北松農業が期日前投票所になることが決まった。1日だけの開所で、3時半から5時までとのこと。猶興館にも依頼があったらしいが、市役所が近いということで断ったとのこと。学校によって対応が違うのはどうかと感じているが、初めての経験でわからないことが多い。18歳選挙権がいい形になることを願う。

高校での特別支援教育

野田代議員（佐中昼）

文科省指定の「高等学校における個々の能力・才能をのばす特別支援教育」の研究の最終年を迎え、文科省の視察を受けた。障害者差別解消法が成立し、自立活動が重視され、通級指導が普通高校に導入される中での視察。指定研究は、教職員の研究、工夫、改善などの頑張りがあってできあがったこと、成果とその反動、普通校での特別支援教育に課題が多いことを視察団に訴えた。

D 憲法、平和。民主主義、国民生活

政治を変えよう

前田代議員（五島定）

「明日を決めるのは私たち―政治を変えよう！6・5全国総がかり大行動」に参加した。高総体中で長崎は1人の参加だったが、4万人が集まった。シールズのシュプレヒコールはノリがよくて、自然に体も動き出す。右翼の「教員が悪いんだー」の連呼も響いた。「市民が変える、選挙を変える」のプラカードは職場に掲示。選挙に行こう。おこない、インターネットで授業を受ける。情報の専門家はおらず、機器は揃っていない中でどうなるのか不安。遠隔授業を進めて、何をしようとしているのか分からない。乗りが増えているだけと感じている。交渉して実現した諸権利に、みんなが満足し、安定していて、組合に入らなくても困らない状態になっている。

遠隔授業が始まりそう

袋良代議員（豊玉）

対馬高校と兼任の音楽と家庭の授業が、遠隔授業になる。厳原で授業を

気になるフリーライダー

井野口代議員（佐商）

組織拡大に頑張っているが、組合員と組合員でないということの違いが明確にならないと、ただ

攻撃に負けないよう準備

錦戸代議員（西陵）

全国高校懇談会で報告された二つの事例。苦小牧西高の教員が敷地外でビラ配布、署名活動をおこなったことに対し、校長がビラを回収させ、全校集会及び文書で生徒や保護者に学校は無関係だと説明した。道議会、教育委員会は教員非難。福井県独自の統一テストの実施。長崎県でこのようなことが起こったらすぐに対処できる準備が必要。

討論の中で、実教部役員を兼ねる島津代議員から、実習教員へのアンケート（勤務等で困ったこと）への各分会での協力要請があった。

2016年国民平和大行進（長崎～広島）

6月28日 雨の中をスタート

6月28日は大雨警報が出る悪天候でしたが、予定どおり、13時から平和祈念像前でスタート集会が開かれ、約120人が参加しました。

長崎市長からのメッセージ、被災協の谷口稜曄さんの挨拶、通し行進者や国際青年リレーの韓国青年二人の決意表明などが行われました。

谷口さんと2人の韓国青年

13時30分に出発した平和行進は、時折激しい雨に打たれながら、市役所や県庁前を経由して、長崎高教組会館近くの蛍茶屋（かつての長崎街道の起点の近く）に16時半頃に到着しました。

初日の行進の参加者は全体が約100人、長崎高教組からは3人でした。二日目以降は、長崎・諫早・大村・佐世保の各支部でリレーして、7月5日に、三川内の県境で、佐賀高教組にリレー旗を引き継ぎます。

【支部より】

佐世保支部教研＆総会

6月25日、佐世保工業高校で、佐世保支部の支部教研と支部総会が開催されました。

教研は、諫早市こどもの城の館長の池田尚氏の講演がメインでした。池田氏の講演は、座って聞くという形式ではなく、参加者を巻き込んでの参加型の講演でした。

いきなり3枚のCDを見せて、「佐世保まで移動する車の中でどのCDを聞いたでしょうか」というクイズから始まりました。指名された参加者はそれぞれ答えていましたが、池田氏の答えは、「3枚とも聞いた」でした。一つしか答えがないと思い込むことの危険性、とくに教員がしばしばその過ちを犯しがちだと指摘しました。

こどもの城でこどもたちに接するときには、「こどもが『する』」ことを大切にしていることを繰り返し、同時に「大人（もちろん教師）は、こどもに『させる』」ことにこだわりすぎていると指摘しました。楽しく、勉強になる講演でした。

総会では、支部提案がとどこおりなく、承認されました。佐世保市と米軍、自衛隊の関係にもとづく歴史的な課題に、簡単ではないけれども佐世保支部としてとりくんでいく必要性を再確認させられました。

長崎支部総会

6月25日、鳴滝高校で、長崎支部の総会が開かれました。長崎北分会の永田分会長を議長に選出して討議が行われ、予定された議案は全て承認されました。

昨年度から導入されている新加入者への組合費補助についても承認されましたが、加入を実現していくためには、組合補助を決めたところで終わらずに、勇気を出して、声かけをおこない、組合の存在意義について理解してもらえるようとりくみを続けていくことが大切だと強く感じました。

例年、支部総会の後は懇親会でしたが、支部歓迎会から近いということで、7月22日になりました。多数の参加を期待しています。

県議会が奨学金制度の充実についての意見書を採択し国へ提出

…「めざす会」の請願については否決

高教組が事務局を務めている「長崎の豊かな高校教育をめざす会」（以下、「めざす会」）は、県議会の6月定例会に、大学生に対する給付型奨学金を創設することを国に求める意見書の提出についての請願を提出しました。この請願は賛成少数で否決されましたが、請願が審議された文教厚生委員会で、自民党会派から奨学金制度の充実についての意見書案が提案され、委員会及び本会議で、全会一致で可決・採択されました。

「めざす会」の請願には4県議が賛成

給付型奨学金については、世論の高まりに押されて、政府も「一億総活躍プラン」の中で、「創設に向けて検討をすすめ」と記載しました。しかし、その財源について、与党内で「教職員定数を削減して確保する」という案がでていることが報道されています。そのため「めざす会」の請願は、教育予算をOECD平均並みに引き上げるなど、大幅に増額して給付型奨学金を創設することを特に求めていました（別掲の請願書抜粋参照）。

請願の審議が行われた文教厚生員会（6月14日）では、紹介議員の堀江県議（共産党）からの趣旨説明に続いて、「めざす会」の事務局として、高教組の馬場書記長が趣旨説明を行いました。その後の討論では、「改革21」の渡辺県議と「地域政党ながさき」の松島県議が賛成の立場から、自民党会派の山本県議と橋村県議が反対の立場から意見を述べました。自民党会派の反対の理由の中心点は「財源の問題まで踏み込んでいる」というものでした。

文教厚生員会で請願の趣旨説明を行う馬場書記長

その後の採決では、賛成が4人（「改革21」2、共産党1、「地域政党ながさき」1）だったため、賛成少数で否決となりました（他の7人は全員自民党会派）。

採択された意見書では「奨学金の無利子化」などを要望

「めざす会」の請願には反対した自民党会派でしたが、給付型奨学金の創設等の奨学金制度の充実を求めることには賛成という立場から、独自の意見書案を文教厚生員会に提出しました。これについては、14日の委員会で全会一致で採択され、24日の本会議でも可決されました。採択された意見書では、「奨学金の無利子化を図ること」など、3点の要望項目があげられており、奨学金の無利子化や給付型奨学金の創設については、全ての党派の一致した意見になっていることが確認できます（別掲の要望事項参照）。

しかし、財源問題を理由に自民党会派が「めざす会」の請願に反対したことからも、奨学金制度の充実のための財源をどう確保するかという点では、報道されているように「現在の教育予算の枠の中で」という結果になることも考えられます。「教育予算をOECD平均並みに引き上げるべきだ」という世論をいっそう大きくしていく必要があります。そのためにも、現在とりくんでいる「えがお署名」や、秋以降にとりくむ「教育全国署名」を大きく広げていかなければなりません。

○「めざす会」が提出した請願書（抜粋）

日本の「教育機関への公財政支出の対 GDP 比（2012 年度）」は 3.5%で OECD 諸国の中では 6 年連続最下位となっており、日本の教育予算の水準は低すぎるという声は、大きく広がっています。段階的に OECD 平均並みの 4.7%まで引き上げていけば、給付制奨学金の創設は可能です。現在の教育予算の枠の中で財源を確保するのではなく、教育予算を大幅に増やして、給付制奨学金制度を創設するべきです。

以上の趣旨に沿って、下記について、国に対する意見書を提出してください。

国は、教育予算を増やして、大学生に対する給付制奨学金制度をつくること。

○県議会が国に提出した意見書に記載された要望事項

1　学びたいという意欲を持つすべての子ども達が進学できるよう、貸与型奨学金の「有利子から無利子」への転換を加速し、奨学金の無利子化を図ること。

2　給付型奨学金の創設に向けて、財源の確保を含めて具体的な検討を進め、実現を図ること。

3　導入が予定されている「所得連動返還型奨学金制度」について、より柔軟な奨学金返還制度となるよう十分な検討を行うとともに、早期の実施ときめ細かな周知に向けて取り組むこと。